

高、一尺五寸三分
幅、一尺五寸四分

周圍花鳥紋濶約二寸

左方に線を劃せる字句は余の讀解し能はざるものなり

一 阿羅憾なる人に就いて。

阿羅憾の名は新舊唐書以下の史籍に見えざること、既に陶齋藏石記に記する所なり、而して記には此を以て頗ぶる波斯の卑路斯、或は其子泥涅師に非るなきかを疑がひ、然も其の名の全く相合せざるに苦しめり。卑路斯は波斯薩珊王朝の遺孽にして、祖國の滅亡するや逃れて吐火羅に走り、更に唐に來歸して其の保護を仰ぎ、泥涅師は卑路斯の子にして、質子として唐に遣はされたるものなること、唐書に詳らかなり。蓋し阿羅憾は波斯の大酋長にして、唐に仕へて官右屯衛將軍に至れりと曰へば、彼の波斯王と稱する卑路斯が、唐にありて右武衛將軍を授けられ、泥涅師が左威衛將軍に任ぜられたるに鑑みて、兩者中の其一人を以て阿羅憾と見んとするは、一見當を得たるものゝ如しと雖、然かも其の間官に相違あるのみならず、卑路斯父子の入朝の時及び其の事績等に就いて知らるゝ所と考へ合す時は、到底兩者の同一を説き得べきに非ず、必ず此れを他に求めざる可らざるなり。然れども現存の史籍に就きて、余輩の涉獵せし限りに於ては、當時阿羅憾の名の記さるゝものなく、強いて類似の名を求むれば、唐會要に波斯僧阿羅本、景教碑に大秦國大德阿羅本として擧げたる、景教宣傳の先驅者あるのみ。阿羅憾は銘に景雲元年（西紀七一〇）壽九十有五を以て没すといへば、其の出生は隋の大業十二年（西紀六一六）にして、景教碑に記せる阿羅本來朝の時、即ち貞觀九祀（六三五）には正に二十歳に相當し、而して阿羅本が高宗時に尙ほ其の朝にあ